

生物科学学会連合 第7回定例会議 議事録

日時 : 2013年6月8日(土)14:00~16:00

場所 : 東京大学理学部 2号館 2階 223号室(東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス内)

出席 :

運営委員

浅島 誠 (生科連 2013-2014 代表・国際生物学オリンピック日本委員会[JBO]委員長)

福田 裕穂* 入江 賢児

団体代表 (加盟団体)

吉田 丈人 (個体群生態学会)

東原 和成* (日本味と匂学会)

岩崎 博史 (日本遺伝学会)

大西 武雄 (日本宇宙生物科学会)

仲嶋 一範* (日本解剖学会)

近藤 孝男 (日本時間生物学会)

八神 健一 (日本実験動物学会)

福田 裕穂* (日本植物学会)

町田 泰則 (日本植物生理学会)

石田健一郎 (日本進化学会)

仲嶋 一範* (日本神経化学会)

和田 圭司 (日本神経科学学会)

遠藤 玉夫 (日本生化学会)

大手 信人 (日本生態学会)

鳩貝 太郎* (日本生物教育学会)

曾我部正博 (日本生物物理学会)

河西 春郎 (日本生理学会)

中村 春木 (日本蛋白質科学会)

島田 敦子* (日本動物学会・日本発生生物学会)

神崎 亮平 (日本比較生理生化学会)

朴 民根 (日本比較内分泌学会)

妹尾 啓史 (日本微生物生態学会)

本間美和子 (日本分子生物学会)

鶴崎 展巨 (日本分類学会連合)

樗木 俊聡 (日本免疫学会)

(計 26 団体)

団体代表 (オブザーバー団体)

東原 和成* (日本農芸化学会)

海部 陽介 (自然史学会連合)

(計 2 団体)

オブザーバー

大隅 典子 (日本学術会議基礎医学委員会委員長)

西田 治文 (国際生物科学連合[IUBS]日本代表委員)

鳩貝 太郎* (国際生物学オリンピック日本委員会[JBO]副運営委員長)

(計 3 名)

欠席 : 日本細胞生物学会 日本薬理学会

(計 2 団体)

(加盟合計 28 団体)

事務局 中西 秀彦 村田 英樹

(敬称略、団体名 50 音順)

議題・報告 :

1. 前回議事録の承認

前回議事録案が確認され、異議なく承認された。

2. 日本学術会議大型施設・大規模研究マスタープランについて

福田副代表より、生物学全体のコミュニティーで優先順を検討すべきとの観点から、生科連主催のシンポジウムが企画され、3月9日に東京大学にて10件の演題をもって開催されたとの報告がなされた。

3. IBO・JBO(国際生物学オリンピック)について

鳩貝国際生物学オリンピック日本委員会運営副委員長より、資料に基づき日本生物学オリンピック2013への参加申込状況ならびに第23回国際生物学オリンピックスイス大会への日本代表の選考状況の概要について報告がなされた。

4. ポスドク問題について

浅島代表より、本年4月より改正労働契約法が施行されたことにより、労働契約が通算5年を超えた場合に常勤化の必要が生じ、人事に流動性がなくなり、若い人の就職を狭めることになるとの指摘がなされた。

本件については、議題6にて改めて検討がなされることとなった。

5. IUBS(国際生物学連合)について

西田 IUBS 日本代表委員より、資料に基づき IUBS の 2012 年における活動状況ならびに DAB プロジェクトの今後の活動状況について説明がなされた。この中で日本の拠出金は最大になっているので応分の存在感を示したいとの報告がなされた。

6. 今後の生科連の進め方とあり方について

(1)生物教育に関するワーキンググループ(仮称)の設置について

鳩貝日本生物教育学会副会長より、今後学習指導要領が改訂される予定だが、現状は教科書によって生物教育に関する用語や記載内容が異なっており、教師や教科書の違いで生徒や入試が混乱する恐れがあるとの報告がなされ、これらを是正するために生科連加盟団体への協力依頼がなされた。

引き続き浅島代表より、生科連の中に「教科書問題検討委員会」を設置することが提案され、審議の結果、「教科書問題検討委員会」の設置が承認され、各加盟団体より6月30日までに委員候補者の推薦を行うことが確認された。さらに委員会で教科書問題の現状をふまえたうえで、今後の教科書のあり方について議論し、文部科学省にも働きかけていくことが確認された。

(2)ポスドク問題に関わるワーキンググループ(仮称)の設置について

浅島代表より、議題4で指摘した内容に加え、2011年に日本学術会議基礎医学委員会(谷口直之委員長)で実施された調査について報告がなされ、現在の状況に変化がなく、むしろ事態が悪化しているとの説明がなされた。

さらに意見交換が行われた結果、浅島代表より、このままでは生物学領域においては将来が見通せず、根本的な解決をはかるための提言書などが必要との観点から、これらの問題を検討するワーキンググループを設置したいとの提案がなされ、承認された。

引き続き、町田泰則氏(日本植物生理学会)、近藤孝男氏(日本時間生物学会)、曾我部正博氏(日本生物物理学会)の 3 名が委員として推薦され承認された。今後、この 3 名を中心に検討してもらうことが確認された。

7. 日本版 NIH について

大隅日本学術会議基礎医学委員会委員長より、日本版 NIH について概要が報告され、生物学的な立場における人材育成や予算配分などについての問題点が指摘された。さらに、関係する 7 学会(日本生化学会、日本分子生物学会、日本免疫学会、日本癌学会、日本神経科学学会、日本細胞生物学会、日本ウィルス学会)で緊急声明を 6 月 10 日に文部科学省宛提出することなどが説明された。

これに対し、生科連としての対応について審議した結果、7 学会とは別に生科連として緊急声明を出すことが承認された。引き続き緊急声明の文言について検討がなされ、日本版 NIH そのものを否定せず、広く賛同が得られるような内容にすることが確認され、6 月 9 日までに福田副代表が文案を作成し、6 月 10 日に加盟団体宛に確認依頼をして、賛同が得られた団体の名称を声明文に併記し、6 月 11 日に提出することが承認された。

浅島代表より、極めて時間が限られているが、なるべく多くの団体から賛同を得たいとの説明があり、加盟団体宛に協力依頼がなされた。

浅島代表より、次回の定例会議開催日について、2013 年 10 月 12 日(土)に開催する旨提案がなされ了承された。時間は 14:00~16:00、会場は東京大学理学部 2 号館 2 階 223 号室とすることが確認された。

以上